

---

令和 3 年度（2021 年度）  
地域医療構想の推進に関する意向調査  
結果概要（医療機関）

---

本結果概要は、令和 3 年 10 月に実施した、十勝管内で一般病床・療養病床を有している医療機関を対象に行った意向調査の結果をまとめたものです。

令和 4 年（2022 年）2 月 1 5 日

北海道十勝総合振興局保健環境部

## 医療機関意向調査について

### 1 基本情報

#### <対象施設数等>

施設種別	対象施設数（件）	回答数（件）	回答率（%）
病院	30	30	100
診療所	20	20	100
合計	50	50	100

#### <許可病床数>

単位：床

施設種別	一般	療養	精神	結核	感染	計
病院	3,091	926	145	0	6	4,168
診療所	238	10	0	0	0	248
計	3,329	936	145	0	6	4,416

#### <改築予定の医療機関>

単位：年

病院名	建築年	築後年数	改築予定時期
公益財団法人北海道医療団 音更病院	S62	33	R7

### 2 病床機能報告制度について

#### (1) 平成28年度からの報告内容【許可病床数】

単位：床

報告年度	許可病床数					合計
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	
H28年度	414	1,889	531	1,370	187	4,391
H30年度	421	1,847	695	1,471	178	4,612
R1年度	382	1,760	924	1,303	100	4,469
R2年度	373	1,599	998	1,269	155	4,394
<b>R3年度（予定）</b>	<b>373</b>	<b>1,550</b>	<b>1,177</b>	<b>1,126</b>	<b>139</b>	<b>4,365</b>

#### ※回答医療機関数

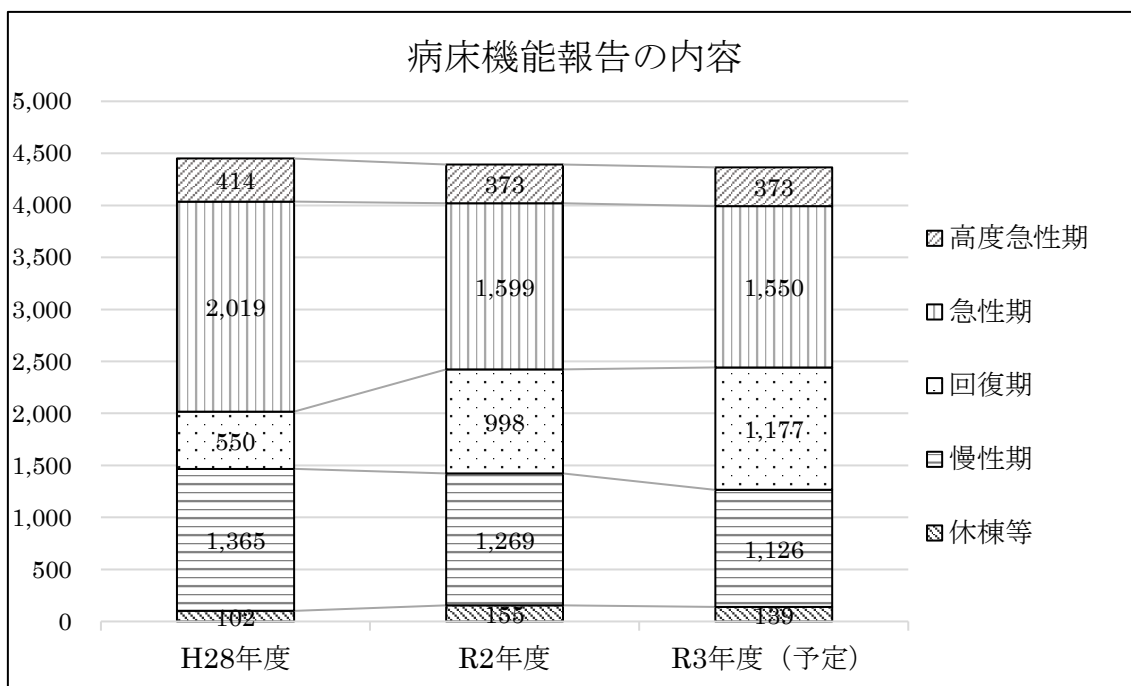
H28年度（病床機能報告）：48件

H30年度（病床機能報告）：55件

R1年度（意向調査）：53件

R2年度（意向調査）：50件

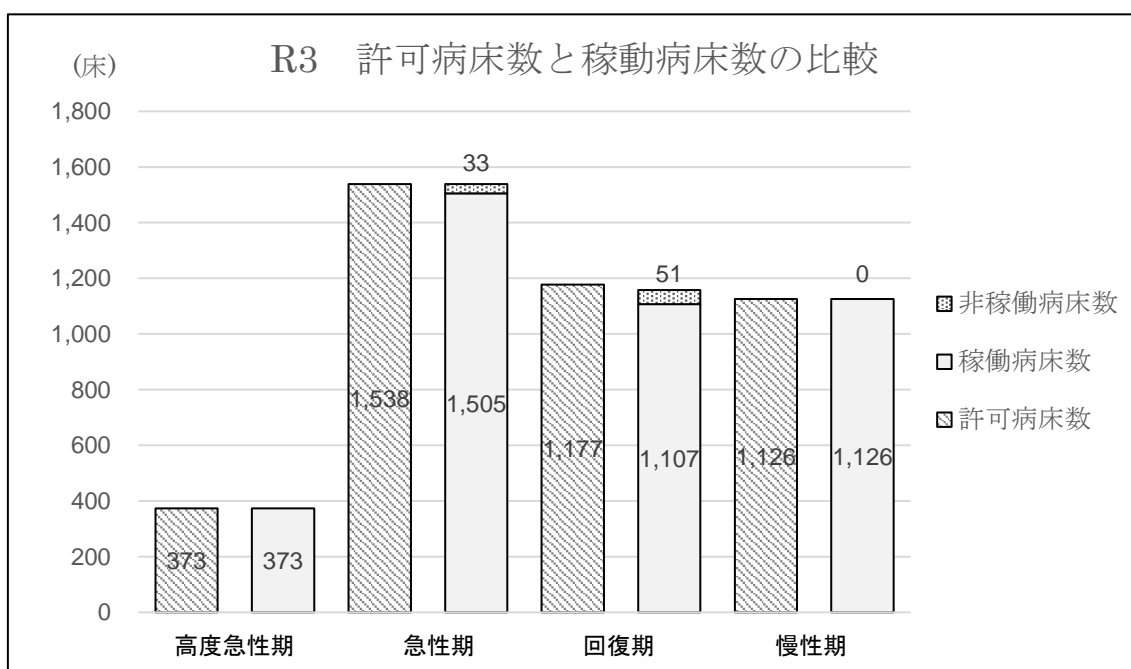
R3年度（意向調査）：50件



(2) 令和3年度の報告内容(病棟単位)について、「許可病床数」と「稼働病床数」を記載 単位：床

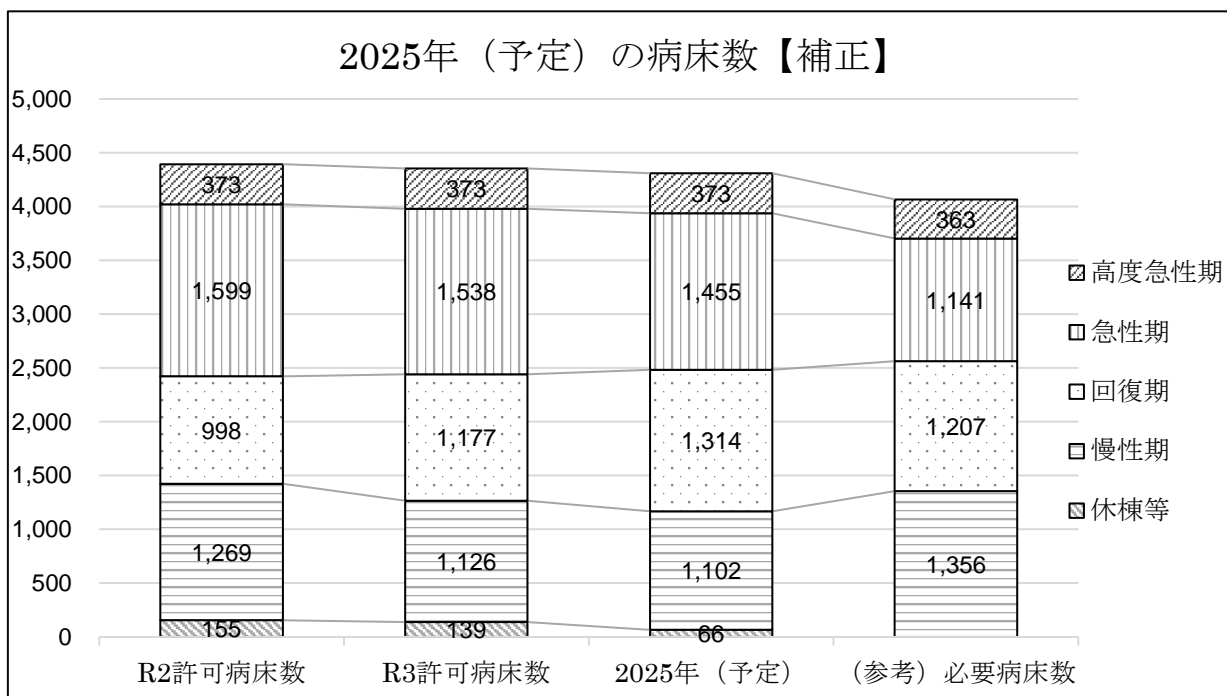
R2 年度報告	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
許可病床数	373	1,538	1,177	1,126	139	4,353
稼働病床数	373	1,505	1,107	1,126	0	4,111
非稼働病床数	0	33	70	0	139	242

※ 回答医療機関数 50 件



(3) 令和7年(2025年)における医療機能別の病床数(予定)※ 単位:床

	許可病床数					合計
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	
R7(2025)年度	373	1,455	1,314	1,102	66	4,310
(参考)必要病床数	363	1,141	1,207	1,356		4,067



(4) - 1 病床の転換及び廃止を考えている医療機関

医療機関名	内容	基金活用意向	意向調査による報告数
公益財団法人北海道医療団 帯広西病院	慢性期医療療養病棟46床を介護医療院46床に転換(令和3年11月予定)	有	許可135床 (回復期43床 慢性期92床)
十勝勤医協帯広病院	リハビリ機能、病床機能の強化・変更により地域包括ケア病床を主体とした回復期へ徐々に移行しつつある。	無	許可51床 (急性期51床)
帯広記念病院	医療法人啓仁会啓仁会病院との統合に伴い、令和3年9月より一般病棟90床を慢性期から回復期に転換。また、本年12月より啓仁会病院から統合の慢性期48床のうち30床を回復期へ転換予定。	有	許可130床 (回復期90床 慢性期40床)

医療機関名	内容	基金活用意向	意向調査による報告数
医療法人徳洲会 帯広徳洲会病院	急性期病床を減らし、休棟病床も含め、回復期とする予定。	無	許可 152 床 (急性期 60 床 慢性期 60 床 休棟 32 床)
清水赤十字病院	慢性期19床を介護医療院へ転換予定(令和6年度開設予定)。		許可 91 床 (急性期 38 床 回復期 12 床 慢性期 41 床)
公立芽室病院	休棟の利活用については、今後の情勢を確認しつつも「廃止」又は「慢性期へ転換」を 2025 年までに検討する。	有	許可 150 床 (回復期 47 床 慢性期 47 床 休棟 56 床)
医療法人社団翔嶺 館十勝の杜病院	障害者病棟(一般)から回復期へ転換することを検討中	有	許可 110 床 (回復期 52 床 慢性期 58 床)
十勝いけだ地域医療センター	平成 28 年 4 月に 60 床のうち、10 床を地域包括ケア病床(地域包括ケア入院医療管理料)へ転換、以後毎年増床を図り、現在は地域包括ケア病床 44 床、急性期一般病床 16 床としている。	無	許可 60 床 (急性期 60 床)
医療法人社団ぶどうの会 いのちの木クリニック	2023 年 3 月頃、急性期 19 床を廃止予定	有	許可 19 床 (急性期 19 床)
医療法人社団 高山泌尿器科	OP の休止など	無	許可 12 床 (急性期 12 )

(4) - 2 病床を過剰な医療機能に転換しようと考えている医療機関

医療機関名	転換の内容	理由
公立芽室病院	療養病棟への転換	地域の高齢化が進む一方、急性期での治療を終えた患者の受け皿としての機能をより強く意識した機能転換を行う。

(4) - 3 非稼働病床をもつ医療機関の理由と運用の見通し

医療機関名	非稼働の理由	今後の運用見通し	休床数
公益財団法人北海道医療団帯広第一病院	稼働が急激に増えることを想定した病床として確保	状況により返上することも検討する。	6床
独立行政法人国立病院機構帯広病院	建て替えのため	将来建て替え予定	7床
十勝勤医協帯広病院	療養環境の維持のため使用していない病床がある。	リニューアルを含めて検討する予定。	3床
医療法人翔嶺館音更明館病院	医療スタッフの不足	医療スタッフを充足させ、なるべく早く稼働させたい	6床
士幌町国民健康保険病院	1割程度救急患者用に病床を確保しているため。	今後も同様に運用する。	7床
公立芽室病院	入院患者減少	慢性期病床として再稼働を予定している。	56床 (休棟)
広尾町国民健康保険病院	常勤医師の退職、看護師不足による	病床数の見直しを検討	4床
本別町国民健康保険病院	人口減少による総体的な患者数の減	回復期機能を提供するにあたり診療圏域人口の減少に応じて、利用者の状態増に合わせた適正な病床数を、町内の介護施設の運用状況等も鑑みながら検討していく。 有床1床のみで継続	4床

医療機関名	非稼働の理由	今後の運用見通し	休床数
足寄町国民健康保険病院	新型コロナによる受診控え並びに少子高齢化による人口減少等	新型コロナの感染が落ち着いた時点である程度の回復が見込まれます。また、他の医療機関、や福祉施設との連携による非稼働病床の削減を進めてまいります。	18床
医療法人社団ぶどうの会のちの木クリニック	日帰り入院のみ行っており、使わなかった病床があったため	2023年の廃止予定まで、現在と同様に日帰り入院のみで運用する見通し	11床
帯広眼科	医師及びスタッフ確保困難の為	個人間の継承を主体に現在検討中	15床
医療法人社団福井皮膚科医院	院長の高齢化による		14床
帯広市休日夜間急病センター	入院基本料返上のため	検討中	2床
帯広レディースクリニック	人工妊娠中絶手術(日帰り手術)のみ	有床一床のみで継続	1床
更別村国民健康保険診療所	入院を要する患者がいなかった。	一般病床(回復期)として、19床の維持を継続する。	10床

### 3 2025年における担うべき役割（自由記載による回答一覧）

※「2025年を見据えた役割」について、番号が示す内容は以下のとおり。（当該医療機関の主たる役割に最も近い記述を1つ選択）

- ①：救急患者の受入れや手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う
- ②：近隣の高度・専門医療を提供する医療機関と連携しつつ、救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する入院医療等の急性期医療を担う
- ③：近隣の高度・専門医療を提供する医療機関と連携しつつ、急性期経過後のリハビリテーションを担う
- ④：長期にわたり療養が必要な患者に対する入院医療を担う
- ⑤：かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う

医療機関名	担うべき役割	具体的な内容
JA 北海道厚生連帯 広厚生病院	①	救命救急センター、総合周産期母子医療センター等の指定を受け高度急性期医療を提供する医療機関として、高度・専門医療の提供を継続する。
社会福祉法人北海道社会事業協会帯 広病院	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急告示病院、二次救急指定病院としての役割を継続し、機能を充実させる。</li> <li>・急性期医療へ対応するため、医療機器をより充実させる。</li> <li>・十勝圏内の高度救急医療の 1/3 をカバーしている現状を維持する。</li> <li>・地域医療センター病院、地域周産期母子医療センターとしての役割を継続する。</li> <li>・十勝圏内に 2 施設のみの周産期・小児入院医療の機能を維持する。</li> <li>・急性心筋梗塞の急性期治療を 24 時間行える体制を今後も維持する。</li> <li>・高齢化に伴い増加傾向の心不全患者の急性期治療および再発予防のための心臓リハビリテーション(外来含む)を行える体制を維持する。</li> <li>・整形外科の充実とリハビリテーションの強化(スポーツリハビリ)に努める。</li> <li>・十勝圏内における唯一の眼科救急体制を継続的に維持する。</li> <li>・他市町村への医師の派遣を実施し地域医療への貢献を実施する。</li> <li>・社会福祉法に基づく無料低額診療事業実施施設としての役割を果たす。</li> <li>・(上記機能の維持のためには)今後も 300 床の一般病床が必要でありこれを維持する。</li> <li>・併設する看護師養成学校の運営を継続する。</li> </ul>
公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院	①	<p>消化器疾患に対しては高度・専門医療提供のため診療体制を充実させる。急性期病床の他、障害者施設、緩和ケア等の病床と在宅医療の提供により地域包括ケアシステムの実現へ向け体制を整備してきた。今後も高度</p>



医療機関名	担うべき役割	具体的な内容
		急性期病院との連携により地域における切れ目のない医医療提供体制を実現したい。
社会医療法人北斗 北斗病院	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療支援病院として開放型病床の利用拡大、医療機器の共同利用の促進</li> <li>・十勝医師会と連動した在宅医療・介護連携支援窓口（患者サポートセンター）の効率的な運用</li> <li>・脳疾患、心疾患、がんに対する集学的治療を中心とした急性期医療提供体制の維持、拡大</li> <li>・十勝管内での脳疾患に対応するため、一次脳卒中センター・機械的血栓回収センターおよび包括的脳卒中センターの施設認定と高度急性期病床の更なる充実</li> <li>・脳外科、整形外科のみならず二次救急患者受入れの拡大</li> </ul>
国立病院機構帯広 病院	①	
社会医療法人北斗 十勝リハビリテーシ ョンセンター	③	病床機能の振り分けが進む中、十勝管内でリハビリテーションを希望する患者様及びご家族様が増えております。患者様・ご家族及び地域の急性期医療機関のニーズに対応するためには、医療資源としての当院リハビリテーション提供体制を十分に提供できる体制の構築が必要であり、すべての病床を回復期病床としました。地域の医療機関や施設と連携をとりながら、今後もリハビリテーション機能を強化・向上させ、良質な医療を地域の皆様に提供して参ります。
社会医療法人博愛 会 開西病院	①	引続き整形外科を中心とした専門的で高度な治療（手術）を提供するとともに、患者の高齢化による周辺疾患の総合的な医療の提供を目指す。また在宅療養支援病院としての役目も担い、在宅復帰にむけたリハビリテーションの提供や長期療養にも対応する。
公益財団法人北海 道医療団 帯広西 病院	②	

医療機関名	担うべき役割	具体的な内容
医療法人社団芳誠会 十勝脳神経外科病院	④	脳卒中後遺症、蘇生後脳症、脊椎損傷、パーキンソン病などの神経難病を中心とした長期治療が必要な患者様への医療提供
医療法人社団刀圭会 協立病院	② ③ ⑤	後方支援病院、在宅医療
社会福祉法人真宗協会 帯広光南病院	④	長期療養を必要としており、継続した医療行為が必要な患者を急性期・回復期等から迅速な受け入れを行う。
帯広中央病院	③	
十勝勤医協帯広病院	③	急性期後のリハビリテーション及び在宅復帰、介護施設や在宅からの急性増悪による緊急入院や在宅療養管理を担う。
医療法人社団慶愛慶愛病院	③	
医療法人社団 新井病院	⑤	
医療法人進和会 西2条腎泌尿器科病院	②	十勝管内における泌尿器科単科の病院として、泌尿器科領域(透析含む)における治療及び救急患者の初期対応や手術等が必要な患者に対する急性期医療を担っていく。
帯広記念病院	③	急性期病院での加療後、自宅退院が難しい患者様を受け入れ、リハビリ・全身管理を行い、在宅復帰・施設入所を支援すること、退院後も通院が困難な患者様には訪問診療をおこない、全身管理させていただくことで、高齢者の方々や、そのご家族が安心して生活できる環境を整えることだと考えております
医療法人社団 翔嶺館 音更宏明館病院	③	・救急告知病院として、救急患者の初期治療や入院医療等の急性期医療を担う。・十勝で唯一の療養病床がある透析施設として、長期入院が必要な透析患者を受け入れていく。・リハビリテーションを拡充し、患者の社会復帰を促す。・在宅療養支援病院として在宅医療の充実を図る。

医療機関名	担うべき役割	具体的な内容
医療法人徳洲会 帯広徳洲会病院	②	ケアミックスの維持
公益財団法人 北海道医療団 音更病院	④	地域の医療機関、介護施設等と連携し、長期療養を中心にニーズに出来る限り応えられる医療を提供する。
士幌町国民健康保 険病院	⑤	町内唯一の病院であるので、恒久的な医療の提供を維持する必要がある。
鹿追町国民健康保 険病院	⑤	かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担うことは当然のことながら、町内唯一の入院施設を有する医療機関として、近隣の高度・専門医療を提供する医療機関と連携しつつ、急性期経過後のリハビリテーションを担う。
清水赤十字病院	②	救急告示病院として一部急性期病床を確保しておく必要がある。既に訪問診療や訪問看護等といった在宅医療の強化を図り地域及び当院診療圏ニーズへの対応を進めているが、一定程度の病床を確保しつつ回復期及び慢性期中心の医療機関としての役割を果たす必要がある。また、当地域において、北海道清水町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第8期・令和3年3月)にて介護医療院開設準備としており、当院においても地域包括ケアシステムの推進に向け介護医療院開設(19床、令和6年度予定)準備中である。
公立芽室病院	③ ④ ⑤	急性期治療を終えた患者への在宅復帰に向けたリハビリテーションの実施。 長期的な療養を可能とし高齢化社会を支える医療機関。 家族の介護疲弊を緩和できる医療機関としてレスパイト入院の推進。 在宅診療や訪問看護を実施する医療機関として地域医療を支える。

医療機関名	担うべき役割	具体的な内容
大樹町立国民健康保険病院	③	
広尾町国民健康保険病院	③	町内で唯一の入院機能をもつ医療機関として、回復期機能を基本とし、急性期と慢性期の機能を備えた地域多機能型病院としての役割を果たすことが必要と考えます。
医療法人社団翔嶺館 十勝の杜病院	③	急性期経過後のリハビリテーションを担い、長期にわたり療養が必要な患者の入院医療も担う
十勝いけだ地域医療センター	②	急性期治療後の患者の受入、通院困難患者の受入によるリハビリテーションを中心とした病院へ転換する。また、在宅療養支援病院として、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションによる在宅支援を行う。
本別町国民健康保険病院	③	主に回復期機能を提供することとなるが、高度急性期病院と当自治体との距離等を鑑みると、一つの機能だけでなく一部急性期や慢性期の機能も担っていく必要があると考える。
足寄町国民健康保険病院	③	町内唯一の24時間対応救急告示医療機関として、急性期の患者を治療しつつ、主としては、急性期を経過した患者への在宅復帰機能に向けた医療の提供を行う回復期機能としての体制を維持していきます。